

土庄の妖怪アート 優秀賞

地域の課題解決を図る自治体や企業の先進事業を表彰する「第8回プラチナ大賞」（プラチナ構想ネットワークなど主催）で、土庄町で妖怪をテーマにしたアートプロジェクトを展開するM e i P A M（メイパム）の取り組みが、大賞に次ぐ優秀賞「地域再生賞」に輝いた。関係系の受賞は2年ぶり6度目。

同賞は、未来のあるべき社会像を「プラチナ社会」と名付け、新産業の創出やアイデアあふれる方策で課題解決に取り組む事業をたたえている。今回は全国から58件の応募があり、1次審査を通過した14件について10月22日に東京都内で最終審査を行った。

メイパムの事業タイトルは「妖怪美術館と折り鶴アートによる古民家再生で『迷路のまち』を『まち磨き』」。オリーブの恵みから新たな観光資源創出で持続可能な地域創生へ」。最終審査では、メイパムの佐藤秀司代表（43）がリモートでプレゼンテーションを行い、土庄町中心部の「迷路のま

プラチナ大賞 古民家再生の活動評価

ち」で古民家を活用して妖怪造形作品などを展覧し、観光客増につなげている取り組みを紹介した。審査では、地域資源を生かし、さらにVR（仮想現実）などの最新技術を使って地域再生に取り組み、ここ数年で着実に成果を挙げている点が評価された。佐藤代表は「古いものに光を当てて新しい価値を創造する『まち磨き』の取り組みが、全国の模範になり得ると認められてうれしい。これからも周遊型『観光』に力を入れ、小豆島100万人の観光客を300万人に増やしていきたい」と話している。

メイパムではプロジェクトを紹介する書籍の出版を目指し、クラウドファンディングで資金提供を求めているという。

同賞の大賞・総務大臣賞は神奈川県、大賞・経済産業大臣賞は「Global Mobility Service」（東京）に決まった。優秀賞は地域再生賞を含め12賞ある。